

令和4年度結城市商業観光振興計画推進委員会議事要旨

日時 令和5年2月20日(月)16:30~18:30
場所 市役所4階 大会議室2
出席者 小笠原委員長、大嶋委員、齋藤委員、柴委員、秋葉委員、奥澤委員
小島委員、稲葉委員、野口委員、登坂委員、大橋委員
事務局 飯島部長、駒井課長、真中補佐、鈴木係長、中川主任、館野主幹

会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

(あいさつ要旨)

ポストコロナの段階に入りつつあり、観光業界においては人手不足が顕在化している。この3年間コロナ禍対策で頭を悩ませていたところをスイッチしていく段階に入った。今後は観光でいかに稼ぐのかということを社会的、地域的に考えていく必要がある。本日は様々なお立場の方が参集されている。意見でも現在の状況でもいいのでご発言いただき、共有知として参りたいのでよろしくお願いします。

3 議事

議事(1)実施事業の検証について

⇒検証方法の確認を行い、4つの基本目標についての事務局評価を報告する。コロナ禍により、達成度の指標となるKPIが難しくなっているものもあるが、実施事業を勘案し、総合的に評価したことを報告する。

議事(2)特筆すべき実施事業の報告

○評価の参考とするため、令和3年度から4年度にかけて、実施した事業を報告する。

・観光誘客・地域経済波及効果促進事業について

⇒歴史的コンテンツ発信、チームラボの開催

・茨城デスティネーションキャンペーン関連事業の実施

⇒茨城産直市 in 上野駅の実施、全国宣伝販売会議の開催、水戸線地酒でいやど~もの開催

・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業について

⇒本市の観光資源の中で、強くアピールできるものを発掘し、受け入れ環境の整備を行うことで「しっかりと稼げる商品」の構築を行う。

議事(3)委員会構成団体の取組等報告、評価に関する意見

○議事(1)(2)の報告を踏まえたうえで、各委員から意見を聴取する。

大嶋委員：私が所属しているボランティアガイド協会においては、昨年、ガイドの養成講座を5回実施した。これは市からの要請ではなく、自主的に企画したものである。また、地域の寺社をめぐる企画の際には、地元の郷土史に詳しい皆さんにお世話になるなど、地域の力を再発見できた。地元にもこれだけの資源があるということをもっと知らしめるために、地域の住民を巻き込んで活動を行っていきたいと思っている。

小笠原委員長：計画を推進する中においては、どうしてもKPIといった成果が付いて回るが、数値で窮々とするのは役所だけでよい。市民の皆さんの活動はもっとおおらかにやっていいと思う。まず行動してみて、そこからどうやって自分たちの地域を変えていくか。そういうことを念頭において頑張っただけであればと思います。大変良い結果がでていて伺って思いました。ありがとうございました。

奥澤委員：DCキャンペーン時の、宣伝販売会議のエクスカージョンにおいて旅行事業者が来られた時の話をしたい。

限られた時間だったため、「つむぎの館」の中で、体験ができる項目を箇条書きにして案内をした。例えば資料館を案内するんでしたら30分、それからもっと触って知りたければ、これも30分。コースター織るには老若男女問わず、1時間あればできますよと。トートバッグの染め、Tシャツの染めについても1時間のように。時間を入れておくことが重要。初めての相手にはパンフレットをただ見せてもわからないだろう。

誘客を行っていく上では、自分がしゃべればいいというわけではなく、伝えるべきことをわかりやすく提案することが、重要であると感じる。

今後、どういう効果が出てくるか楽しみではある。皆様方もぜひ、相手が理解しやすくする誘客が大切と考えるので、目指していただきたい。

小笠原委員長：今の奥澤委員のお話はなかなか重要で、立派なパンフレットがあっても、どのくらい体験に時間がかかるのかとか、要点、要所がわからないパンフレットはたくさんある。実際にはそういう小さなポイントを押さえてある資料が大変貴重で、結城の事業者にはそういう蓄積があるという結果の賜物と解する。

エクスカージョンの成果として、非常によく回れたと言う印象があればそれは十分な成果であろうし、市役所もこういうことをちゃんと理解した上で次回以降生かしていくとよい。

それこそ小さな紙1枚で誘客の情勢は変わるかもしれません。

奥澤委員：あと、もう一つ。その時、着物の陳列館において結城紬の着物を来訪者みんなが着てみたいと言っていた。それを考えると、着楽会の着心地体験事業はすばらしい事業と感じる。結城の宝です。稲葉会長をはじめ会員さん大変だと思うけども、頑張っただけでいただいたら、花開くかなと思っています。

小笠原委員長：全く賛同です。現在、縁あって結城看護学校の方でも授業を持たせてもらっているが、学校の生徒がほとんど、結城のことを知らないという事実があります。

看護学校の過程が過密であることもあるだろうが、きものday結城でまち歩きをさせると、

こんな町だったのかと驚く生徒が多い。

着物を触ってみたかったとの意見も多く出ていた。この日でなくても、着付け体験もしくは羽織体験でもいいと思うが、何らかのアクションを起こすとよい気がする。縁あって本市で学ぶ学生に対し、結城紬の理解を深めたり、裾野を広げたりといった観点からも何らかの形で実現できるといいかなと思っています。

野口委員：商品開発の事業について、受託した JTB と一緒に意見交換しながらお手伝いしている。この事業の主たる目的にあったのが、やはり特別な体験を作れるかどうかという話だったが、以前も漫遊いばらきというテーマで、実施してみて、商品化は行っている中で、それがまだ根づいてないという現状があると感じる。

あまり凝りすぎた特別なものを作りこみ過ぎても、アフターDC 以降続かなかったら全く意味がない。

そこで、アフターDCの後も商品として継続していくものとは果たして何であろうかという話になる。

結局のところ、結城には見世蔵が連なる町並みがあったりとか、鬼怒川の伏流水を利用した酒、味噌、醤油の醸造品があったり、由緒ある寺社仏閣、原始的な手仕事から生まれる、結城紬など、かけがえのないものがある。その日常のコンテンツをしっかりと価値をつけて商品化するってことが売りではないかと思う。それなら事業者も受け入れができるんじゃないかを感じる。

何か特別な商品を 3 年間の中でやって、疲れ切って来年はもういい、ってふうになったら元も子もない。普段やっているものを、市民、JTBが一緒になって、商品として磨き上げることで、付加価値として、商品価値が上がって、継続的な観光商品という形で繋がっていけばいいなと思っている。

今、結城縁旅というテーマで、いろいろな体験コース、商品開発、食の開発を行っている。今後は共有させていただきながら、たくさんのご意見いただきつつ、磨き上げを行いますので、引き続きよろしく願いいたします。

小笠原委員長：デスティネーションキャンペーンの面白いところは、3 年間の期間において何に重点をおき、どこで勝負をかけるかが自治体、地域の裁量で決まってくるところである。長期的にどう稼いでいくのかということを考えているならば、もし 1 年目でうまくいかなくても 2 年目で修正すればいい。結城については 1 年目の準備が随分進んでいると見たので、長期的には大変楽しみであると感じる。

奥澤委員：もう一点。結城家の朝光をはじめ、ゆかりのお寺を紹介する「結城家物語」事業について。昨年も実施して、今年も実施するという。これは本当に大切なことと思う。

本会議にも仏教会などに参加してもらおうといいのだが。結城は立派なお寺がとにかく多い。寺院には山門があって本堂があるわけだが、その間に、二階建ての楼門があるのだけど、結城には 6 ヶ寺ある。近隣市町では結城だけ。中世の結城は輝いていたことを紹介していくとよいだろう。観光資源として寺院を巻き込んだことは一定の評価ができるのではないか。

小笠原委員長：一定の評価という発言もいただいたが、それではここで評価の確定をしたい。今回の実施内容については、定められた、KPI や事業実施量がコロナ禍により、当初の目的通りの評価をすることは難しい現実がある。

このことは、まち・ひと・しごと創生会議の中でも同様の指摘をしております、当初想定していたKPIを達成できなくても、十分地域として頑張っただけから継続していくということであれば、前向きに大局観を持って評価を行いたい。

この事務局が行った自己評価について、原案通りの評価で決定したいと思いますがいかがか。

(委員からの質問、意見等無し)

特段ご質問ご意見等がないようでございますので、当評価で確定をさせていただきたい。

—評価の確定—

小笠原委員長：少し総括的な話をさせていただく。コロナ禍で事務局もご苦労があったろうし、何よりも地域の事業者の方々が大変だったと察する。ただ冒頭に申し上げた通り、今後は急激に需要が戻ってくる。現場の方々は体感しているかもしれないが、急激な、怖いぐらいの需要回復が見込まれる。

近隣のマイクロツーリズム、新幹線や飛行機での遠方への泊りの観光、海外からのインバウンドの観光客、この3つがっぺんにやってくる。

観光の現場における人材不足が日々深刻さを増している状態である。ここで自動化や機械化の準備ができていたかどうか勝負の分かれ目となる。

今年の花見シーズン、大型連休の需要に供給が追い付けるか。想定を超えるような人が出てくるので、それに対応できるかどうかということを考えるべき。

また、政府においてもインバウンドの基本計画の素案が出てきている。人数の誘致の多寡ではなく、消費額を高めましょう、お客さんをたくさん集めるだけじゃなく、しっかりとお金を使って落としてもらうように、準備しましょうという内容である。

一方で、人数についても強気の数字が出ていて、コロナ前の2019年の3,000万人を上回るようにしようと。これは、これまで3年止まっていたものが突然戻ってくることを意味する。

私たちはそろそろこういったアフターコロナ後の状況について考えていかねばならないが、近隣市町を含めた地域社会の中でこの話が話題になっていない。

国外からはインバウンドで外国人が、国内では関西から九州から新幹線乗り継いで、水戸線に乗って来るっていうイメージがまだ持ててないのかなと感じる。

繰り返しになりますが、3年間のブランクを圧縮して対応策を準備しておくことが、求められる現実的な課題かなというふうに思っていますので、各関係機関の皆様、企業の皆様についても、今春から初夏にかけての準備を抜かりなくしていただく必要があるかなと。

以上が私の方から今日の意見でございます。

議事(4)これからの実施予定事業の報告

○令和4年度中に実施、または開始となる事業を報告する。

- ・結城物産まつり
- ・結城家物語—結城さくらの陣—
- ・AR(拡張現実)を活用した市内周遊企画

○令和5年度内に実施予定の事業を報告する。

- ・観光プロモーション事業
- ・観光イベント実施事業
- ・歴史的コンテンツ情報発信事業
- ・DC関連事業

小笠原委員長:事務局から説明があった内容について、ご質問、ご意見があればご発言願う。最後の質問の場でありますので、ぜひご発言なかった委員さんで、ここで一言でも結構ですので、ご意見ご意向をお知らせいただければありがたい。

奥澤委員:本日、結城家の18代当主であり徳川家康の次男である結城秀康を特集したTV番組が放映されることの紹介。

秋葉委員:物産まつりの主催者である物産協会会長としてお話をさせていただく。出張して味噌づくりを教えているが、教室において、自分で当たり前だと思っていることが世間にもあまり知られていないことを感じた。例えば製造と醸造の違い、糀とはどういうものでどんな役割を果たしているかなどである。そのような生産者ならではの知識を自分の中で整理して、伝えてあげると非常に興味を持つことがわかりました。今後とも購買層とのふれあいを大切にして、事業を実施してまいりたい。

大橋委員:ネクストゆうきの大橋です。観光客の回復という話は、地方に出張したときなど身をもって感じている。そのような時期に、新しいイベントを実施することはよい試みである。ARやデジタルといった目新しいイベントというのが期待が持てる。ぜひ市内事業者をリードして盛り上げていてもらいたい。

事務局:スマートフォンを使ったスタンプラリーであれば立ち寄った場所などの行動履歴もわかることから、分析を行ってまいりたい。

大橋委員:デジタル化の話と観光の人手不足の問題を関連付けて。市内の飲食店でも、タブレット注文を導入することによって、1人少なくても回せるとか、お金をやり取りに関してもデジタル化で省力化が可能であろう。そういうことをしないと人が来たときにもう対応が多分できない。例えばバスとかタクシーの運転手もいない。そのような問題を解決に導くには、新しいアイデアを役所がどんどん出してあげるといいかなと思っています。

齋藤委員：委員長が冒頭にお話していただいた、人手不足の話を痛感している。観光業をしているが、宿泊施設はチェックインとかチェックアウトを、自動化しないと間に合わない。空港の人手不足も深刻である。福岡空港の手荷物検査は大渋滞である。先ほど奥澤委員からは発言があった、その施設で時間がどのくらい必要かの周知は重要なこと。自分で行ったことがない場所だとわからないから、滞在時間の表記っていうのは必要と感じる。

柴委員：国道 50 号線沿線をつむぎセンターという観光業をやっているが、なかなか予約も入ってこないような状況なので、委員長がおっしゃったように爆発的な需要が増えることを期待したい。

野口委員：コロナ後の人の増え方について。今までの観光事業のように、大型バス何台も連なってくるっていうような増え方ではなくて、今の時代に対応した増え方をするという理解でよろしいか。

小笠原委員長：コロナ禍は終了したわけではない。感染対策をしつつの対応となるため、団体がバスで来るのではなくて、お仲間、お友達で何人かでの旅行が増えると考えられる。それに対応したような商品や受け入れの仕方が必要になってくる。団体客入れて宴会、という大きなホテルではなくて、ちょっと高めでも家族や仲間泊まる少人数の旅行がメインになってきていると思われる。そう考えるとコロナ禍は、時計の針を進めていると思っていただくといい。我々の方ですべきことが、一気に増えたとも考えられる。

稲葉委員：本市は大人数の団体客は期待できないが、少人数の対応はできると思う。しかし、泊まるところが、ビジネスホテルだけでは、やっぱり面白くない。ちょっと小洒落たものができればいいかなと思う。

野口委員：今回古民家をリニューアルして宿泊施設をオープンする予定である。一棟貸として、1 組のみが泊まっていたくスタイル。今後、本市でそのような宿泊施設が、一棟、二棟と増えていけばいい。宿泊に特化した宿が最近のゲストハウスの潮流なので、宿とは別に飲食店や体験コンテンツも充実させつつ、街の中の滞在時間が長くなるような、地域に貢献できる宿になっていけばいいなというふうに思っています。

稲葉委員：寺院での宿泊体験はどうか。子供たちを集めたり、ファミリーに貸すところからからやったらどうか。いいお寺もいっぱいある。観光資源の寺院としては、宝物がなかなか見られない件について。参拝だけでは物足りない向きもあろう。寺院とはよい関係を継続し、可能性を模索してもらいたい。昔ながらの路地にもいいものがあるので、これについても活用を見出したい。

小笠原委員長:寺院の話を上上げると、寺院にいきなり宿坊の実施をお願いすることは結構ハードルが高いただろう。段階を踏みつつ、地域がしっかりと寺院の実施事業を認め、ともに参画し寺院のモチベーションを上げてやる必要がある。

お互いの領分をちゃんと示していくと、結果的にお金が回るようになる。

そういうところを、例えば市役所が主導してやるにしても、忘れない方がいいというのはちょっと感じる。

簡単に貴重なものを見せてください、という議論ではうまくいかないの、少し時間かけるつもりでやっていただけたらいい。

例えば、宝物を見るにしても拝観料をしっかりとお支払いするようにするとか。そこから始める入口論として申し上げる。そして今後の関係性の構築によっては期待していきたいと思っています。

奥澤委員:委員長のおっしゃる通りである。(弘経寺の蕪村の襖絵を引き合いに)拝観ついでに見せてなんて言っても駄目。有名美術館が借りに来る物であるから。1日いくら払うとかね。そうすると一生懸命見せてくれるだろう。無料で見ようとする感覚を持ったら駄目。やっぱりちゃんと払って、ちゃんと見せてもらう。そうすると説明をちゃんとしてくれるから。そういうことをやらないと。

小笠原委員長:現在の着地型観光のトレンドがそうなっている。いいものを提供する対価として代金を収受する仕組みである。

登坂委員:ボランティアで日本語教室「伸びる会」に所属しています。観光客としての外国人はちょっとわからないんですけども、教室にいらっしゃる外国の方はかなり増えてきました。特にパキスタンとかスリランカの方が、増えています。

先日は、茨城新聞に当会の理事会のことを新聞に載せていただいた。カラフルに輝く多様性、女性の活躍、外国人の支援、障害者雇用、若者や高齢者の社会参加を尊重する地域の一つとして、結城を紹介していただいた。

当会も30年近くやっていますが、結城市民の中にもこの日本語教室があるっていうのを知らない方もたくさんいると思われるので、良い機会となった。

結城市も今2,000人ぐらいは外国の方いらっしゃるんじゃないかなと思うが、一緒に生活する仲間市民として、やっぱり仲良くやっていきたいと思う。

結城市だけじゃなくて、下野市や五霞町の方が勉強したいって見えた。遠方からの希望者も受け入れることで、今度は市内へ遊びに行こうとか、選定してもらえるといいかななどと思っております。

小笠原委員長:日本語教室と観光誘客は一見関係ないと思うかもしれませんが、これが突然繋がってくる。会員の皆さんには本当にいろんなところから受け入れていただいていると思う。突然ここにいる皆さんから、助けてくださいとか、教えてくださいとか、助言を請われる場面が来ると思われる。そういう時は国際交流の観点で、これってこうなんじゃないですか、こうした方がいいよって部分がお気づきの部分があったら、ご助言いただけるとあり

がたい。

小島委員：結城紬の生産者組合の代表をしています。お話聞いている、やはり結城の観光といっても、それほど見るものあるのかな、と考えていました。

でも今日、やはり私たちが作っているこの結城紬に関しても、興味のある方は存在するんだろうと思う。今日たまたま宇都宮から夫婦の方が来て、1時間ぐらい見せたのですが、やはり後で今度またみんな連れてきますよと言って帰っていかれた。こういうのは励みになるし、非常に良かった。

やはり私たちが作っている工程を、もう少し細かく宣伝、発表できるような場を作っていたとありがたい。

そうすると、観光の一環として協力できるんじゃないかなと思ったりしています。

スポットが点在している点について。町の中の間屋を見たいとか、食事をするところはどこがいいとか、モデルコースをつくれなかなあと。

小笠原委員長：製造現場の皆様にも、観光がご迷惑おかけすることはいけないと思っています。事業者の皆さんのところでこうやっては困る、もしくはこうした方がいいんじゃないかっていう部分お気づきのことがあったら、ぜひこの中でご指摘いただきたい。

現場をどう活用するか、というのは市役所の仕事であり、観光業の皆様のご役目ですので、ぜひ今後ともご協力いただきたい。よろしくお願ひしたいと思います。

皆様から貴重な内容のご意見いただきまして大変ありがとうございました。

この観光の担い手というのが、市役所ではなくて市民の皆さんであるというところ、企画はできても稼ぐというのは、事業者の皆様でないとできないという部分を改めてご確認いただきたい。次年度以降も様々な課題が出てくるだろうし、コロナもどうなるかわかりません。皆様にとって、観光事業と商業という融合の中で、いい内容が生み出されてくることをご期待いたします。

これにて本日予定した議題が終了いたしました。

本委員会の議事を終了します。

— 議 事 終 了 —

4 その他

○連絡事項

- ・今後の会議予定の連絡
- ・任期満了となり委員の改選があることの連絡

5 閉会